

わたしのまちのPR

ピーアール

柏原市編



柏原市は、大和川と石川が合流する大阪府の東南部に位置しています。北は八尾市、西は藤井寺市、南は羽曳野市と接しています。東は金剛山地を境に奈良県の三郷町、王寺町、香芝市とそれぞれ接しています。

市内には、近鉄大阪線・道明寺線とJR関西本線の3線(10駅)が走っており、大阪、奈良とダイレクトに結ばれています。また、大阪市中心部まで約20kmと交通至便の位置にありながら、市域の3分の2を山地や丘陵地が占めており、自然環境に恵まれた、府内でも有数の緑豊かなまちになっています。今年、市制施行50周年を迎え、更なる発展が期待されています。

この柏原市の魅力や特色について、市長公室経営企画本部参事の宮本さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしくお祈いします。

早速ですが、柏原市の歴史を教えてくださいませんか。

よろしくお祈いします。

柏原市の歴史は、約3万年前まで遡ります。市内からは、旧石器時代に使われたと推測されるナイフ型石器を始め、縄文時代や弥生時代の土器が多く出土しています。4世紀から6世紀にかけて、我が国では多くの古墳が造られました。本市も例外ではなく、多くの古墳が造られ、現在でもその姿を確認することができます。古墳の数は、市町村の中では全国一だといわれているくらいです。

飛鳥・奈良時代には大阪と奈良を結ぶ、平安時代には京都から高野山に通じる、交通の要衝として栄

えました。

江戸時代には、市内を流れる大和川を利用した物資輸送が盛んとなり、柏原は物流の中継地点として大いに発展しました。経済活動が活発となる一方で、この大和川の治水対策は人々の悩みの種でした。このため、1650年頃から中河内地域の住民たちは、大和川の付け替え運動を始めました。この運動は幕府を動かし、1704年、ついに大和川の付け替え工事が完成しました。現在、柏原市役所が建っているあたりが、工事の起点になりました。ここから下流の、現在の大和川は、この付け替え後のものです。元の河床は、新田として開発されました。

こうした歴史を持つこの地に、昭和33年10月1日、人口約34,000人のまちとして柏原市が誕生したので

柏原市の歴史が感じられるおすすめの場所を教えてくださいませんか。

市内で史跡散策をするのであれば、史跡高井田横穴公園が一番です。JR高井田駅から徒歩すぐのところにあります。

総数200基以上と推定される大規模な横穴墓群である「高井田横穴群」を公園として整備したもので、国の史跡にも指定されています。公園内は、遊歩道に沿って横穴が見学できるほか、日本各地の横穴墓を紹介した広場などがあり、歴史的文化遺産に直接触れることができます。

公園内には、薄い板石を積み上げて造られた横穴式石室をもつ「高井田山古墳」もあります。石室内からは、日本で2例目の発見となった火鬚斗(古代のアイロン)や鏡、甲冑など多くの副葬品が出土しています。石室には透明の屋根をかけて内部を見学でき



高井田横穴群



高井田山古墳

るようにして、出土物の模造品を並べています。

公園に隣接して柏原市立歴史資料館があり、市域の古墳や寺院跡などから発掘された考古資料を、郷土のあゆみとともに分かりやすく展示しています。公園を散策された後は、こちらにもお立ち寄りいただき、柏原の歴史を辿っていただければと思います。

柏原市にはこの他にも多くの歴史遺産があります。

奈良時代に建立された河内国分寺は、現在では、塔の跡と礎石が残っているのみで、その姿を確認することはできませんが、塔の跡からは寺の軒先を飾っていた瓦が出土しており、当時の姿を伝えてくれています。

また、江戸時代に建てられた「三田家住宅」(国の重要文化財)は、大和川の舟運で栄えた商家のたたずまいそのままを残しており、当時の生活様式や建築様式を知るうえで貴重な資料となっています。

三田家住宅



多くの歴史遺産がありますね。

歴史だけでなく、柏原市は多くの自然にも囲まれています。

紹介にもありましたように、市内の3分の2を山地が占めており、市内のいたるところに緑があふれています。こうした自然を公園として整備し、市民が気軽に自然とふれあうことのできるようにしています。

先ほどの高井田横穴公園を始め、玉手山公園、大和川河川敷緑地公園、原川親水公園など、自然の中で憩いのひと時をすごせる場として市民に親しまれています。桜やアジサイ、ツツジ、など四季折々の草花が訪れる人を楽しませてくれます。この他にも、多くの古墳が残されている高尾山創造の森(府民参加の森)も、身近に自然や歴史とふれあえる、憩いと散策のスポットとして人気です。

また、市内には奈良盆地から大阪平野に流れる大和川を筆頭に、石川、原川など多くの川が流れています。大和川には、冬になると大陸からユリカモメが飛来し、ゆったりとした川の流れとともに、安らぎを与えてくれます。大和川の河川敷から眺める夕陽は絶景の一言です。是非一度ご覧ください。

本当に自然が豊かですね。柏原市では、この環境を生かしたブドウの栽培が盛んですね。

そうですね。市内の丘陵地を生かしたブドウ栽培が盛んで、かつて全国一の産地だったこともあるようです。近年は、宅地化などで栽培面積が減っていますが、それでも収穫期になると、市内の約100箇所で見学ブドウ園が開設され、毎年10万人もの観光客がブドウ狩りを楽しんでいます。

このブドウを生かしたワイン製造も行われており、「柏原ワイン」として人気を博しています。

ブドウ畑



また、柏原は「ゆかた」の産地としても全国に名を知られており、最盛期には、全国シェアの25%を占めていました。染色にはきれいな水を多く必要とします。先ほども大和川の付け替えが行われたと言いましたが、この旧大和川の河床だった地域から豊富に湧き出る地下水を利用して「ゆかた」が生産されています。

この「ゆかた」が、柏原の夏を飾る一大イベントである「柏原市民郷土まつり」と「河内音頭おどり全国大会」をより一層鮮やかに彩ります。

まつり当日は、会場となる大和川河川敷緑地公園に早い時間から、まつりを楽しみにする市民や観客が多く集まってきます。威勢よく鳴り響く太鼓の音を合図に始まった踊りの輪は二重、三重に広がり、それに飛び入り客も加わって、会場は一層盛り上がりを見せます。

河内音頭おどり全国大会



柏原市の魅力である自然環境を生かした、まさに自然との共生ですね。

柏原市のまちづくりに関する取組について教えてくださいませんか。

本市の玄関口でもある柏原駅周辺の再開発があります。従来の柏原駅は、地上駅舎でホームがそれぞれ線路を挟んでいたことから、跨線橋で連絡していましたが、この跨線橋にはエレベーターもエスカレーターもなく、お年寄りや身体の不自由な方にとっては非常に利用しにくい環境にありました。また、跨線橋は改札内にあったため、柏原駅の西口と東口を通り抜けることができず、数百メートル離れた踏切や歩道橋を渡らなければなりません。

そこで、柏原駅の管理者であるJR西日本の協力

のもと、駅の西側と東側を結ぶ自由通路やエスカレーター、エレベーターの設置など、市民の利便性向上に向けた柏原駅周辺の整備に取り組みました。

昨年11月には、市民活動の拠点となる「市民プラザ」が、再開発ビル「アゼリア柏原」の5～6階にオープンしました。施設内には、子育て中の親と子どもが自由に集える場として開放されている「ほっとステーション」のほか、各種研修や生涯学習の場として利用できるよう会議室が整備されています。

今年6月からは、指定管理者制度の導入を予定しており、民間事業者のノウハウを積極的に活用し、さらなる市民サービスの向上と経費の削減に努めていきます。

柏原駅周辺の再開発も含めて、市民参加のまちづくりに取り組まれていますね。

はい。本市では、市民参加と協働のまちづくりを積極的に進めており、昨年4月には、「柏原市まちづくり基本条例」が施行されました。これは、市民と市がそれぞれの役割と責務を自覚し、市民参加による協働のまちづくりを行うことで、市民が主体となった地域社会の実現を目的としたものです。

市民からの意見を反映して、「市民プラザ」への通路は駅自由通路から直結とするなどバリアフリー



柏原駅



市民プラザ

を考慮し、また、駅前道路幅については十分な広さを設けるなど、安全性の確保に努めています。こうした、行政からの一方通行ではない、市民参加・協働での取組の結果、市民からも「便利になった」と満足の声があがっています。

今後の柏原駅周辺の利活用にあたっては、市民が本当に必要としているまちづくりとなるよう、市民からの意見を踏まえて、進めていきます。

市民参加・協働での取組が、市民の満足につながっているのですね。

こうした市民参加・協働のまちづくりは様々な分野でかたちになっています。

昨年6月にはNPO法人「柏原ふる里づくりの会」が設立されました。市内東部の山間地にある一般廃棄物最終処分場跡地などを里山として再生させるとともに、新しい名所の創出を目指す活動に取り組んでいます。ボランティアを中心に、桃や桜の植樹や、遊歩道・休憩所の整備を通じて「自然と歴史に触れることのできる空間づくり」を目指しています。

また、地域福祉の拠点施設である「ほのぼのかたしも」の開設にも市民の力がありました。

「ほのぼのかたしも」は、昨年12月に、市民の誰もがいつでも気軽にふれあい活動やボランティア活動に参加できるようにと、市民が主体となった柏原市社会福祉協議会により開設されました。施設内には、子供たちが自由に遊べる落書きコーナーや、ウッドデッキ、さらに屋外には足湯コーナーも設置されており、高齢者や子育て中の親子が気軽に集える場所として、多くの方が利用されています。

ほのぼのかたしも



こうした市民本位のまちづくりを活かして、新しい基本計画の策定に取り組まれていますね。

はい、昨年6月に、新しい柏原市の進むべき方向性を示す「まちづくり基本計画」の策定に向けて、一般公募の市民からなる「(仮称)新しい柏原まちづくり基本計画」策定委員会を設置し、様々な視点から、研究・検討を行っていただきました。そして、今年1月に「新しい柏原まちづくり基本計画2008」として、ご提言いただいたところです。

厳しい意見もありますが、市民の視点から、行政の視点では気付かなかったような部分についての指摘が多くありました。今後は、市民と視点が一致するよう、行政の視点を変えていかなければと気持ちを新たにしています。

なるほど、市民の視点からの新たなまちづくりを進めているのですね。

最後になりますが、今後の抱負について教えてくださいませんか。

本市では、平成17年度に策定した「柏原市新行財政計画」に基づいて、抜本的な行財政改革に取り組み、これまで予算額ベースにして約100億円もの歳出削減を達成しました。しかし、これは市が「新しい柏原」を創造するまでのスタート地点に立ったに過ぎません。これまでの成果に安住することなく、今後も更なる行財政改革を継続し、「新しい柏原」を創造していく必要があります。

今後も、柏原市が未来に向かって着実に成長を続けられるよう、柏原市第3次総合計画の将来像である「緑と水にやすらぎ 心ふれあう 魅力あるまち」を目指し、市民参加・協働のまちづくりを進めながら、夢のある未来を実現するために最大の努力をしていきます。

「緑と水にやすらぎ 心ふれあう 魅力あるまち」、夢のある未来の実現に向けて一層躍進されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。